

資料 2－2

国立大学教育研究評価委員会（第32回）
平成 25 年 1 月 29 日

観点ごとの分析に当たっての留意点等について（案）（新旧対照表「実績報告書作成要領」抜粋）

第 1 期	第 2 期
「教育水準」の分析に当たって根拠となる資料・データ例 各分析項目ごとに設定した基本的な観点に従って分析を行うに当たっては、目的や状況等に対応して適切と判断した資料・データが必要です。以下には、根拠となると考えられる資料・データの例が示されています。 分析項目Ⅰ 教育の実施体制 観点 1－1 基本的組織の編成 この観点では、学部・研究科等の教育目的（以下「教育目的」という。）を達成するための組織が適切に編成されているかについて把握します。 【資料・データ例】 学部・研究科等の内部構成（学科（課程）・専攻等）、学科（課程）・専攻等別の学生定員と現員、学科（課程）・専攻等別の教員組織の構成と専任教員の配置、学部・研究科等別の学内・学外兼務教員数 観点 1－2 教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制 この観点では、教育目的を達成するために、教育内容、教育方法の改善に向けた体制が整備され、どのような取組が行われたか、その結果、どのような改善・向上に結び付いたかについて把握します。 【資料・データ例】 ファカルティ・ディベロップメントの体制、内容・方法や実施状況、その結果による授業内容・方法の改善の状況	「教育の水準」の観点ごとの分析に当たっての留意点等 各分析項目の観点ごとの分析に当たっては、以下のことに留意して記述願います。記述に当たっては、学部・研究科等の特性や状況等を踏まえ、適宜、記述内容例を参照してください。なお、記述内容例は例示であり、示された内容の全てについて、必ずしも記述を求めているものではありません。また、必要に応じて、認証評価で使用した資料・データや認証評価の結果等も効率的に活用し、現況を分析してください。 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 観点 1－1 教育実施体制 この観点では、学部・研究科等が考える自らの教育目的を達成するため、 ・どのような組織編成上の工夫を行っているか ・内部質保証システムをどのように機能させて教育の質の改善・向上を図っているか について記述してください。 【記述内容例】 ● 教員組織編成や教育体制の工夫とその効果 ● 多様な教員の確保の状況とその効果 ● 入学者選抜方法の工夫とその効果 ● 教員の教育力向上や職員の専門性向上のための体制の整備とその効果 ● 教育プログラムの質保証・質向上のための工夫とその効果

分析項目Ⅱ 教育内容

観点 2－1 教育課程の編成

この観点では、教育目的を達成するために、教育課程が体系的に編成されているか、授業科目が教育課程編成の趣旨に沿った適切な配置・内容となっているかについて把握します。

なお、「授業科目の配置」とは、教養教育及び専門教育の配分、必修科目、選択科目等の配当が考えられます。

【資料・データ例】

教育課程の内容・構成、シラバス（記述例）、履修要項（記述例）、授業時間割（例）、教養教育の位置付け・内容

観点 2－2 学生や社会からの要請への対応

この観点では、学生の多様なニーズ、社会からの要請等（学術の発展動向を含む）に対応した教育課程の編成に配慮しているかについて把握します。

【資料・データ例】

他学部・他専攻等の履修可能科目の履修登録や単位修得状況、単位互換の状況、科目等履修生の状況、留学プログラムの整備・実施状況、キャリア教育・インターンシップの実施状況

観点 1－2 教育内容・方法

この観点では、学部・研究科等が考える自らの教育目的を達成するため、

- ・明確な学位授与の方針に基づき、どのような教育課程編成上の工夫を行っているか
- ・どのような教育方法や学習支援の工夫を行って教育課程の実効性を高めているか

について記述してください。

【記述内容例】

- 体系的な教育課程の編成状況
- 社会のニーズに対応した教育課程の編成・実施上の工夫
- 国際通用性のある教育課程の編成・実施上の工夫
- 養成しようとする人材像に応じた効果的な教育方法の工夫
- 学生の主体的な学習を促すための取組

分析項目Ⅲ 教育方法

観点 3－1 授業形態の組合せと学習指導法の工夫

この観点では、教育目的を達成するために、講義、演習、実験、実習等の授業形態がバランス良く組み合わせられているか、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか、教育課程の編成の趣旨に沿った適切なシラバスが作成され活用されているかについて把握します。（研究科では、研究指導の方法や研究指導に関する適切な取組が含まれます。）

【資料・データ例】

教育課程の内容・構成、シラバス（活用・記述例）、履修要項（記述例）、T・A・RAの採用状況、授業形態や学習指導法にあわせた教室等の活用状況、開設科目別の履修登録者数、主要授業科目への専任教員の配置

観点 3－2 主体的な学習を促す取組

この観点では、学生の主体的な学習を促す適切な取組が行われているか、単位の実質化への配慮がなされているかについて把握します。

なお、「単位の実質化」とは、授業時間外の学習時間の確保、組織的な履修指導、履修科目の登録の上限設定等、学生の主体的な学習を促し、十分な学習時間を確保するような工夫を指します。

【資料・データ例】

学生の主体的な学習を促す取組、単位の実質化への配慮を示す資料

分析項目Ⅳ 学業の成果

観点 4－1 学生が身に付けた学力や資質・能力

この観点では、各学年や卒業（修了）時等において学生に身に付けさせる学力や資質・能力及び養成しようとする人材像に照らして、在学中・卒業（修了）時の状況から、教育の成果や効果があがっているかについて把握します。

【資料・データ例】

単位修得状況、進級状況、卒業・修了状況、学位取得状況、資格取得状況、学生が受けた様々な賞の状況

観点 4－2 学業の成果に関する学生の評価

この観点では、各学年や卒業（修了）時等において学生に身に付けさせる学力や資質・能力及び養成しようとする人材像に照らして、学生からの意見聴取の結果等から、教育の成果や効果があがっているかについて把握します。

【資料・データ例】

学業の成果の到達度や満足度を示す調査結果

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 2－1 学業の成果

この観点では、学部・研究科等が設定した期待する学習成果を踏まえつつ、在学中や卒業・修了時の状況から判断して、学業の成果が上がっているかについて記述してください。

その際、在学中や卒業・修了時の状況から判断される学業の成果を把握するための取組とその分析結果については、必ず記述してください。

【記述内容例】

- 履修・修了状況から判断される学習成果の状況
- 資格取得状況、学外の語学等の試験の結果、学生が受けた様々な賞の状況から判断される学習成果の状況
- 学業の成果の達成度や満足度に関する学生アンケート等の調査結果とその分析結果

分析項目Ⅴ 進路・就職の状況

観点5－1 卒業（修了）後の進路の状況

この観点では、学生に在学中に身に付けさせる学力や資質・能力及び養成しようとする人材像に照らして、学生の卒業（修了）後の進路・就職状況から、教育の成果や効果があがっているかについて把握します。

【資料・データ例】

職業別・産業別の就職状況、就職率、進学状況、地域別の就職状況

観点5－2 関係者からの評価

この観点では、学生に在学中に身に付けさせる学力や資質・能力及び養成しようとする人材像に照らして、卒業（修了）生や就職先等の関係者からの意見聴取等の結果から、教育の成果や効果があがっているかについて把握します。

【資料・データ例】

卒業（修了）生や、進路先、就職先等の関係者からの評価結果等を示す資料

観点2－2 進路・就職の状況

この観点では、学生の卒業・修了後の状況から判断して、在学中の学業の成果が上がっているかについて記述してください。

その際、卒業・修了後の状況から判断される在学中の学業の成果を把握するための取組とその分析結果については、必ず記述してください。

【記述内容例】

- 進路・就職状況、その他の状況から判断される在学中の学業の成果の状況
- 在学中の学業の成果に関する卒業・修了生及び進路先・就職先等の関係者への調査結果とその分析結果

第 1 期	第 2 期
研究水準」の分析に当たって根拠となる資料・データ例 各分析項目ごとに設定した基本的な観点に従って分析を行うに当たっては、目的や状況等に対応して適切と判断した資料・データが必要です。以下には、根拠となると考えられる資料・データの例が示されています。 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 観点 1－1 研究活動の実施状況 この観点では、学部・研究科等の研究目的（以下「研究目的」という。）に照らして、研究活動が活発に行われているかについて、研究活動の実施状況、研究資金の獲得状況等、研究活動の活性の度合いを示す客観的な数値データを中心に把握します。 ここでいう「研究活動」とは、基礎研究や応用研究に限らず、技術・品種の創出、診断・治療法の改善・定着を目指した研究の活動、学術書・実務書・教科書等の出版、海外の学術書・文芸作品等の翻訳や紹介、総合雑誌のジャーナリズム論文の出版、辞書・辞典の編纂や関連データベースの作成、政策形成等に資する調査報告書の作成、実務手法の創出、スポーツ・芸術の創作やパフォーマンス、芸術作品等の修復・発掘・展示等の技術の開発・改良等の、広く教員の創造的活動を指します。 【資料・データ例】 （１）研究の実施状況 論文・著書等の研究業績や学会での研究発表の状況、研究成果による知的財産権の出願・取得状況、共同研究の実施状況、受託研究の実施状況 （２）研究資金の獲得状況 科学研究費補助金受入状況、競争的外部資金受入状況、共同研究受入状況、受託研究受入状況、寄附金受入状況、寄附講座受入状況	「研究の水準」の観点ごとの分析に当たっての留意点等 各分析項目の観点ごとの分析に当たっては、以下のことに留意して記述願います。記述に当たっては、学部・研究科等の特性や状況等を踏まえ、適宜、記述内容例を参照してください。なお、記述内容例は例示であり、示された内容の全てについて、必ずしも記述を求めているものではありません。 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 観点 1－1 研究活動の状況 この観点では、学部・研究科等が考える自らの研究目的に沿った研究活動が活発に行われているかについて、研究活動の状況、研究資金の獲得状況等、研究活動の活性の度合いを示す客観的な数値データ等を踏まえて記述してください。 ここでいう「研究活動」とは、基礎研究や応用研究をはじめとして、技術・品種の創出、診断・治療法の改善・定着を目指した研究の活動、学術書・実務書・教科書等の出版、海外の学術書・文芸作品等の翻訳や紹介、総合雑誌のジャーナリズム論文の出版、辞書・辞典の編纂や関連データベースの作成、政策形成等に資する調査報告書の作成、実務手法の創出、スポーツ・芸術の創作やパフォーマンス、芸術作品等の修復・発掘・展示等の技術の開発・改良等、広く教員の創造的活動を指します。 【記述内容例】 ● 論文・著書等の研究業績や学会での研究発表の状況 ● 研究成果による知的財産権の出願・取得状況 ● 競争的資金による研究実施状況、共同研究の実施状況、受託研究の実施状況 ● 競争的資金受入状況、共同研究受入状況、受託研究受入状況、寄附金受入状況、寄附講座受入状況

観点 1－2 大学共同利用機関、大学の全国共同利用機能を有する附置研究所及び研究施設においては、共同利用・共同研究の実施状況

この観点は、大学共同利用機関、大学の全国共同利用機能を有する附置研究所及び研究施設を対象としており、目的に沿った共同利用・共同研究が活発に行われているかについて、客観的な数値データを中心に把握します。

【資料・データ例】

共同利用・共同研究の実施状況、共同利用・共同研究に関する環境・資源・設備等の提供及び利用状況、共同利用・共同研究の一環として行った研究会等の実施状況

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

観点 2－1 研究成果の状況（大学共同利用機関、大学の全国共同利用機能を有する附置研究所及び研究施設においては、共同利用・共同研究の成果の状況を含めること。）

この観点では、研究成果の状況について、学術面、社会、経済、文化面の視点から選定した「研究業績説明書」（Ⅱ表）を資料として、研究目的に照らして、関係者の期待に応える成果があがっているかを把握します。

【資料・データ】

「学部・研究科等を代表する優れた研究業績リスト」（Ⅰ表）及び「研究業績説明書」（Ⅱ表）

観点 1－2 大学共同利用機関、大学の共同利用・共同研究拠点に認定された附置研究所及び研究施設においては、共同利用・共同研究の実施状況

この観点は、大学共同利用機関、大学の共同利用・共同研究拠点に認定された附置研究所及び研究施設を対象としており、附置研究所等が考える自らの目的に沿った共同利用・共同研究が活発に行われているかについて、客観的な数値データ等を踏まえて記述してください。

【記述内容例】

- 共同利用・共同研究の実施状況
- 共同利用・共同研究に関する環境・資源・設備等の提供及び利用状況
- 共同利用・共同研究の一環として行った研究会等の実施状況

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

観点 2－1 研究成果の状況（大学共同利用機関、大学の共同利用・共同研究拠点に認定された附置研究所及び研究施設においては、共同利用・共同研究の成果の状況を含めること。）

この観点では、学部・研究科等が考える自らの研究目的に応じた研究成果が上がっているかについて、学術面及び社会、経済、文化面の視点から選定した「研究業績説明書」を踏まえて記述してください。

【記述内容例】

- 学部・研究科等の組織単位で判断した研究成果の質の状況
- 学部・研究科等の研究成果の学術面及び社会、経済、文化面での特徴
- 学部・研究科等の研究成果に対する外部からの評価